

会 議 記 録

会議名称	平成 30 年度第 2 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 30 年 7 月 14 日 (土) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 32 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 小田、坪内、小出、有泉、原田、有永、武者小路、大谷、加藤、芹生、太田 区側 中央図書館長、中央図書館次長、管理係長、企画運営係長、施設整備担当係長、資料相談係長、事業係長、管理係主査、柿木図書館長、高円寺図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、高井戸図書館長、方南図書館長、南荻窪図書館長、下井草図書館長、今川図書館長
配付資料	資料 1 平成 30 年度図書館サービス評価について 資料 2 平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画 資料 3 平成 30 年度 区立図書館主催コンクールに事業について
会議次第	1 開会 2 中央図書館長あいさつ 3 議題 【報告事項】 (1)平成 30 年度図書館サービス評価について (2)平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画について (3)平成 30 年度 区立図書館主催コンクール事業について (4)その他 4 閉会

○会長 それでは、定刻になりましたので、平成30年度第2回杉並区図書館協議会を開催いたします。

まず、中央図書館長からご挨拶をお願いします。

○中央図書館長 皆さん、こんにちは。大分暑くなってしまうと、こんな時期に開催ということで、暑い中、きょうはありがとうございます。きょうは、サービス評価に関することが中心という議題でありますので、ひとつよろしくをお願いします。

最近、西日本のほうで、大阪で地震があり、そして岡山、広島等々で集中豪雨ということで、非常に自然災害が続いているというところで、先日、全国図書館協議会というのが都の中央図書館で開催されて、そのとき会長だったか副会長だったかが大阪市か何かの方で、挨拶の中でいろいろ大阪の図書館にも被害があったというようなことをおっしゃっておりまして、全国の方にいろいろ支援もいただいているということで感謝の言葉があったところです。

で、今回の西日本豪雨に対することですけれども、区といたしましても、あるいは特別の震災だということになったときから、区長のほうから支援のほうをしっかりとやれというような指示が区全体にございまして、当初はやはり現場で混乱していますから、物的にも人的にもなかなか受け入れられる状態ではないということで、ちょっと日はたっているんですが、きのう岡山県の総社市というところから職員派遣等の依頼がございまして、区の職員5名がきのう岡山のほうに支援に向かったというようなことで、そういった形で区としても支援を始めてきているところではございます。

きょうの議題ですけれども、大きなのは(2)の29年度の実績報告と30年度の計画ということで、これは各館の館長のほうから、その内容について3分程度ということでわずかな時間ですけれども、プレゼンをさせていただきます。それをお聞きいただいて、いろいろさまざまご意見をいただければと思います。これは評価の一環の重要な部分でございますので、いろいろ質問等お願いしたいと思っておりますけれども、よりよい図書館にしていくために重要なところですので、ひとつよろしくお願いたします。

○会長 ありがとうございます。

それで、今回は、2名の委員から欠席する旨の連絡を受けております。

それでは、毎回述べていることですが、議事進行に当たってはなるべく円滑に進行できるようにご協力をお願いいたします。できるだけ多くの委員の方に、気楽に意見や質問を述べていただきたいと思います。

それでは、議題に入ります。本日は報告事項が3件予定してあります。事務局より配付資料の確認をお願いします。

○企画運営係長 はい。中央図書館の企画運営係長です。よろしくお願いします。配付資料の確認をさせていただきます。

まず、第2回杉並区立図書館協議会次第です。

次が、資料1で、平成30年度の図書館サービス評価です。

次が、資料2で、かなり分厚いものではございますが、平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画で、資料として13館分の報告資料が入っております。ご確認をお願いいたします。

最後に、資料3で、こちらに入っていますのが区立図書館の主催コンクール事業についてということで、1冊、資料3が入っていますので、確認をお願いいたします。

○会長 皆さん、おそろいでしょうか。

それでは、まず報告事項(1)平成30年度図書館サービス評価について、事務局から説明をお願いします。

○企画運営係長 はい。企画運営係長のほうで報告させていただきます。すみません、座って説明させていただきます。

まず、資料1を出していただけますでしょうか。

平成30年度の図書館サービス評価についてというのがそのものです。内容を説明させていただきます。

まず、今年度の図書館サービス評価は、杉並区立の図書館13館の平成29年度事業を対象に、杉並区立図書館サービス基本方針を踏まえ、図書館の運営状況等の評価を行います。

実施方法ですが、まず各図書館が行う自己評価があります。これは、各図書館が、平成29年度当初に設定した目標について、取組結果、及び実績数値に基づき自己評価を行うものです。

次に、図書館協議会による評価を行います。平成29年度杉並区立図書館の実績に関する資料、これは利用者満足度調査結果や各図書館が行う自己評価及び実績数値などに相当しますが、並びにこの各館への実地調査・ヒアリングをもとに、当該年度事業について、総合的評価、取組目標別評価、運営形態別評価を行います。

これに加え、各図書館で利用者満足度調査というのを行っています。これは、利用者の図書館サービスへの満足度とニーズをより把握するために、各図書館で中学生以上を対象

に実施しているものです。昨年度の図書館サービス評価部会において、それまでは評価対象年度の6月、その年度の6月に実施した調査結果を対象にしてきましたが、これからは評価対象年度の翌年度5月に実施した調査結果を図書館サービス評価部会にしていくことに変更されております。今回行います図書館サービス評価は平成29年度の評価を行います。これは平成30年の5月に実施した利用者満足度調査の調査結果を使用していくこととなります。ただ、そうしますと、昨年度、本来は前年どおりですとそれを使用しているはずですが、29年の6月に実施した調査結果が昨年取りまとめた分には反映しておりませんので、今回例外として、29年6月に実施したものとことし30年5月に実施したものの2回分を調査結果として、今回の29年度評価に反映させていくという形にしております。

あと、全体評価ですが、利用者満足度調査、各図書館の自己評価及び図書館協議会が行う評価の結果をもとに、今後の区立図書館の運営・サービスの改善、充実に生かしていくために、中央図書館が運営形態——直営、業務委託、指定管理を含めてですが——別の取組結果や達成度比較するなどの評価を行っていきます。

これが全体的な図書館サービス評価ということになりますが、ここで、この図書館サービス評価を行うに当たってお伝えすることが1点あります。図書館協議会委員の学識経験者として明治大学から推薦されている委員ですが、ご家庭の事情のため、今年度評価については、大変申しわけありませんが、取り組むことがなかなか難しいという連絡がありました。今回の委員からの申し出につきまして、会長と相談し、いたし方ないという事情という判断をいたしまして、本来は1図書館を3人の委員で評価する予定でしたが、1名欠けても2名以上の委員から複数評価されることとなりますので、例外的に1人欠けた12名で評価をしていくことになりました。そのことをご報告しておきます。

あと、今後の図書館サービス評価のスケジュールですが、6月には評価の取組方針の決定、あと協議会が行う評価及び担当館の決定をしております。あと、きょうは図書館協議会において、各図書館の29年度事業報告及び平成30年度事業計画の報告を受けて、これを一つ参考にして評価していただくということになります。7月から9月の中旬にかけては、図書館協議会各委員の方から、視察及び評価表作成、回答をいただくということになっております。9月から11月にかけて、いただきました各評価を事務局が取りまとめいたします。あと、11月ですが、事務局が評価部会に図書館協議会の評価、まあ、案ですが、運営状況報告書素案を提出することになります。この提出した素案を、12月に図書館協議会において運用状況結果を報告ということで審議いたします。2月にいろいろと各館の評価を

いただいているんですが、その後、内容を翌年度の図書館に対しての対処方針として、そのために一応この内容に関しての取りまとめを行うということですね。で、3月になって、最終的に運営状況報告書を図書館協議会にいただいた内容で公表いたすというような経過で行っていくことになります。

あと、昨年と違う点を申し上げますと、昨年度は図書館サービス評価部会を図書館協議会と別に開催した経過がありますが、ことしは杉並区の実行計画の見直しを行う年に当たりまして、昨年度の図書館協議会は3回でしたが、今年度は実行計画の改定に際してその都度委員様にご報告、ご確認しなければいけない点が多くあると思われまますので、委員様を招集することが非常に多くなると予想されています。その関係で、図書館協議会の中で、図書館サービス評価部会に相当する事項を検討していくような形で、なるべく回数を減らすような形を検討していきたいかと思っておりますので、まだ決定ではございませんが、そのような方針で今検討している最中でございます。

以上です。

○会長 はい。どうもありがとうございました。

それでは、平成30年度図書館サービス評価について、ご質問なりご意見おありでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○会長 もし何か意見が出てきましたら、また、後のところでお願いします。

それでは、報告事項(2)平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画についての事務局からの説明をお願いします。

○企画運営係長 はい。それでは、引き続きまして、企画運営係長のほうで説明をさせていただきます。資料2のほうをごらんいただけますでしょうか。

これが、かなり厚いものですが、資料2ということで29年度の事業報告及び平成30年度の事業計画ということになります。

資料の内容は、それぞれ13館分の資料が入っております。その1館当たりの内容という構成を説明させていただきます。まず、1の館別自己総合評価、これが一番最初に入っているものです。中央図書館をあけていただくと、最初に館別自己総合評価というのが入っています。ここで、29年度の自己評価が入っています。

次ですが、2として、図書館サービス基本方針に基づく図書館運営と、A3判のものが入っていますが、この内容は、先ほどの1の自己評価のほうの詳細を表にしたものがこれに

当たります。これが平成29年度の事業報告の内容ということになります。

次ですが、平成30年度の各館の図書館の事業計画というのが入っています。これが1枚、A4の両面刷りのものが入っていると思うんですが、これが30年度の計画ということになります。この詳細が、同じような形で項目別計画表という形で、A3のものが入っているということになります。

これに加えて、3年間、平成28年度から30年度までのロードマップのほうをつけておきました。去年と内容的には同じではありますが、参考までに資料にさせていただきたいと思っています。

これがこの資料2の1館分の資料構成ということになります。

これからプレゼンテーションを行います。この資料2に基づいて1館ずつ、およそ3分程度で各館長からプレゼンテーションをいたしたいと思います。

今後は図書館サービス評価の内容として、この資料2を、あるいは各館長からの報告を参考資料として使っていただければというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、中央図書館から説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

中央図書館の資料としては、資料の最初のところから5枚ついています。では、中央図書館の説明をさせていただきます。

中央図書館は、杉並区の図書館、中央館を含めて13館ありますが、それを取りまとめるセンター館としての機能と中央図書館独自の事業を開催する地域館としての機能、二つの機能を持っております。今回、主にセンター館としての機能について説明をいたします。

まず、館別自己総合評価をごらんください。時間の都合もありますので、主な点を抜粋して説明させていただきます。

館別自己総合評価ですが、その年度当初の課題というところがありますが、その一番上のところの「『学びの場』としての図書館の実現」というところがありますが、この部分ですが、この①ですけれども、これが蔵書規模の適正化ということになります。平成29年度は、全館で資料計画に加え除籍計画を作成し、計画的に蔵書の適正化を進めました。その結果、平成29年度は中央館で約2万冊、全館では9万冊の減となりまして、目標値に対して中央館は101%、全館では97.1%になりました。しかし、平成32年度末の目標値を実現するためには、もう少しペースを上げていかないとなりませんので、今後もより一層の努力が必要であるというふうに考えております。また、年度当初の課題の3として、

「『楽しい交流空間』としての図書館」という項目があります。ここの④ですが、子ども読書活動推進計画についてなんです、平成29年度は同計画に基づいて事業を推進してまいりました。ただ、平成29年度に関して言いますと、同計画の改定時期に当たりまして、同計画の改定作業を行っています。これによって、平成30年度から平成33年度までの4年間の改定ということになりまして、これをつくることができたということをご報告しておきます。あとは、平成29年度の事業実績については、詳細はⅡのサービス方針に基づく図書館運営というA3の書類があります。そこを見ていただくようお願いいたします。

次に、平成30年度の事業計画ですが、平成30年度の中央図書館事業計画というところがありますので、そこを見ていただくようお願いいたします。その中に、1の「『学びの場』としての図書館の実現」というのがありますが、ここは先ほどの29年度の事業報告でも説明いたしましたが、中央図書館の蔵書の規模の適正化ということで、さらに進めていく必要があるというふうに考えております。あと、2の「『知の共同体』としての図書館」としてということがありますが、ここの部分につきましては先ほど申し上げたような形でもありますが、29年度に引き続きまして行政資料のデジタルアーカイブ化とか、あるいは有料データベースの利用促進という形で図っていきたいと考えています。あと、平成30年度は、平成31年度に予定しております中央図書館の大規模改修工事に向けて、利用者サービスの低下を招かぬよう、適切な形での準備を進めていくということが大きな課題と考えておりますので、それを実行していきたくと考えております。

以上、中央図書館からのご報告です。

以下、永福図書館以下で説明をさせていただきますので、よろしくようお願いいたします。

○永福図書館長 永福図書館長です。失礼いたします。永福図書館の館別自己総合評価から抜粋して、29年度の報告をいたします。

①番、29年度永福図書館は蔵書の適正化の目標値11万5,000冊に向け、資料管理を行いました。達成率は97%とほぼ目標値に近づいております。ほとんどのスタッフが手分けをしまして、所蔵している資料の貸出状況ですとか、同じ本が他の館にどのくらいあるのか所蔵の状況などを調べ、リサイクル本、除籍本の引き抜きを行いました。

②番についてですが、事業に関しましては、一般向けには相続についての講演会を行いました。こちらの講演会は、毎年、杉並区全地域からの参加がありまして、区民の関心が高い事業を実施できております。永福図書館は重点収集として身近な法律問題の資料を集めております。相続についての講演会はそちらに関連した事業でございます。

次に、④番ですが、一般、児童、どちらのイベントも、実施する際に、イベント後の終了後、さらに知識を深めることができるよう、関連資料の展示やブックトークを行っております。

次に、⑥番ですが、ボランティアとの協働につきましては、毎年6月と3月に連絡会にて意見交換を行い、8月のボランティア全員参加によるお話し会につなげております。

次に、⑦番ですが、近隣中学校と協働してYA向けのおたよりの作成は、29年度で4回目となっております。29年度は向陽中学校と実施しまして、今年度、30年度は大宮中学校を予定しております。

⑧番、館内掲示についてですが、児童コーナーには世界の絵本と題しまして壁面に世界地図を作成し、国ごとにどのような絵本があるか掲示をしています。こちらは、来年度からオリンピック・パラリンピックへ向けて事業の展開を行っていく予定です。

30年度も的確な資料管理、重点収集テーマに関連した講演会の実施、イベント時の関連資料の展示、近隣中学校の協働事業など、29年度から引き続き実施していく予定でございます。

以上です。

○柿木図書館長 柿木図書館長です。よろしく申し上げます。

柿木図書館は、上井草一丁目、杉並区の北側に位置しまして周辺には農地もまだ多く、近郊農村の様相を伝えています。敷地内には、図書館のシンボル、まめがきが大きく育っていて、緑の中、野鳥も多く、自然に囲まれた、趣のある図書館です。

平成29年度の事業報告についてですが、館別自己総合評価、柿木図書館、こちらを要約した形で報告をいたします。

資料収集については、年間計画に基づいて分担収集項目のものを幅広く収集しました。また、収集と同時に除籍を進めることによって、資料の入れかえを行い、新しい資料の提供をするようにしました。

行事については、児童を対象としたものが年間を通して、季節に合わせたさまざまな行事を行うことができました。特に、夏休みに行った読書チャレンジスタンプラリーは多くの子どもたちの参加により好評を得たところです。また、一般行事としては、健康に関することをテーマに、「日常生活における健康について考える」と題して、講演会を実施したところです。

地域との連携については、例年、近隣の小学校に訪問してブックトークを行って、子

もたちに読書の楽しみを伝えているところです。地域図書館として、今後も地域に根差した運営を行ってまいります。

平成30年度事業計画についてですが、こちらは、少し飛びまして平成30年度柿木図書館事業計画、これもこちらを要約した形で報告していきます。

地域館として、利用者ニーズに応えることができるように杉並区立図書館サービス基本方針に基づいて取り組んでいきます。

「『学びの場』としての図書館」。利用者の要望に応えることができるよう、地域の学びの場として活用しやすい図書館を目指します。そのためには、まず図書資料の充実を図って、快適な読書環境を整え、図書館としての役割を果たしていきます。

「『知の共同体』としての図書館」。利用者の多くの方が知識を得られるよう、また活用できるような豊富な資料収集を行ってまいります。図書館で得られた知識によって豊かな生活を送るための援助ができるよう、資料収集や事業展開を図っていきます。

「『楽しい交流空間』としての図書館」。利用者の皆様が気軽に集え、交流できる場としてあかちゃんタイムの実施、それに付随したお話し会など事業行事の充実を図ること。また、大人向けの行事を通して、利用者を多く呼び込めるような事業を行っていくよう努めてまいります。

このように、杉並区立図書館サービス基本方針に基づいた図書館を実現できるように運営してまいります。

以上になります。

○高円寺図書館長 高円寺図書館長です。よろしくお願いたします。私からは高円寺図書館の館別自己総合評価で前年度事業報告と、今年度の事業計画から主な取組状況をご説明させていただきます。

当館はJR中央線、東京メトロ丸ノ内線とのほぼ中間に位置し、3階には80席を超える読書室も備えており、地域館の中ではゆったりとしたスペースがある図書館でございます。

昨年度、当館は開館50周年を迎えました。こちら、館別自己総合評価に書いてあるとおり、周年事業として、5月に日フィルの弦楽四重奏コンサート、8月には被爆体験伝承講話、原爆のパネル展示、秋の読書週間には吉川英治記念館の学芸員による「高円寺時代の吉川英治」、新宿歴史博物館学芸員による「高円寺時代の林芙美子」、2月には高円寺ゆかりの作家ねじめ正一氏の講演会、また真打台所おさん師匠による記念寄席も開催しました。これら事業を通じて、幅広い層の区民の皆様が気楽に集い、交流できる場としての図書館

をPRしてきました。今年度も既に一般利用者から要望がありました、新宿の学芸員による講演会「林芙美子と太宰治」を連続講座の一環として開催しております。

昨年度、委員の方からアドバイスもいただきました地域館同士、他の社会教育機関との連携につきましては、昨年度、夏休みの読書チャレンジにおいて隣接の方南図書館と、さらにことは永福図書館とも協力して、運営形態は、指定管理、直営と異なりますけども、近隣地域館同士で相互乗り入れ方式の夏休みスタンプラリー事業を取り組もうと思っております。

また、社会教育機関との連携におきましては、28年度に引き続き29年度も区立郷土博物館と連携事業を開催しました。昨年度、郷土博物館の「石井桃子展」に合わせ、当館でも11月に館内展示並びにDVDの上映等を行っております。

また、高円寺図書館、当館の特殊事情といたしまして、現在、高円寺地域には当館1館しか地域館はございません。1館での守備範囲が非常に広いエリアとなっております。例えば、新1年生の図書館バッグ配付につきましても、区立では杉三、四、六、八、十、和田小と6校、あと当館と隣接する私立光塩女子学院にも出向き、7校、各校と協力して事業の一環として図書館の利用促進につながるような読み聞かせなども含めて実施しているところでございます。当然、学校が多いということで団体貸出、中高からの、今も受け入れておりますけども、職場体験なども多くなっております。

今年度も、お示ししました事業計画に基づき、学びの場、知の共同体、楽しい交流空間の実現に向け、職員一丸となって、さらに工夫して取り組んでまいります。

私からの説明は以上です。

○宮前図書館長 宮前図書館長です。よろしく願いいたします。

まず、宮前図書館で前年度行ったものについて、館別自己総合評価に基づいて幾つかご紹介させていただきます。

まず、年度当初、課題として上げたものですが、図書館員が持つスキルの向上を目標として、外部における研修への参加と内部における業務の精通に努めることを目標として取り上げました。図書館業務はその内容の幅がとても広く、大抵の場合は役割を分担しながら遂行していきますが、この部分においてジョブローテーションを導入して、みずからが担当する業務だけでなくほかの業務も担当することで図書館員としての知識の幅を広げることが可能となりました。また、研修参加についても同様であり、中央図書館や都立図書館、あとはTRC本社で行う専門研修等に参加してです。それを館内整理日においてフィ

ードバックすることで、参加できなかったスタッフとともに情報共有も図ることができました。業務に精通することで、研修に参加すること、同じ、こちら二つのすることで、図書館員としてのスキルが向上して、レファレンス等にも役立っております。

また、図書館で行うさまざまなジャンルのイベントを行うのは、後の読書活動へつなげることが重要となります。宮前図書館でのイベント開催後、収集したアンケートを確認する限りでは、落語や音楽を聞いたり、科学や古典のイベントに参加することで何かきっかけをつかんで来館する利用者が多かったように思います。今後行うイベントについても、そうしたイベント後の利用者の反応を伺いつつ、参加してただおもしろかったねとそのまま終わらせるのではなく、イベント自体に何かきっかけをつかむための機能を持たせたいと考えております。

図書館自体をよりよく利用してもらうための要素の一つとして、読書環境を整えることも大切なことだと考えております。幸いなことに宮前図書館は座席数がとても多く、利用者が座って閲覧できる環境が整っています。花を飾ったり、植物を置いてみたり、リラックスしやすい環境整備に取り組んでおります。

最後に、蔵書適正化における資料の整理も並行して行っています。宮前図書館は利用者満足度調査において、古い資料が多いと意見をいただくことが今までたびたびありました。古い資料が必ずしも不必要とは考えておりませんが、蔵書を精査し、なるべく新しいものへ買いかえるとともに現在の書架形成を見直して、蔵書の整理を行うことで、利用者にとって、より利用しやすい図書館として認知してもらう努力を継続して行っていきたいと考えております。

この、今挙げた四つのことをまた継続しながら来年度の事業計画を立案して、本年もそれを進めている最中でございます。

私からは以上です。

○成田図書館長 成田図書館長です。よろしく申し上げます。では、私からご報告申し上げます。

成田図書館ですが、立地としましてはJR阿佐ヶ谷駅の南のほうにございます。こちらの中央図書館からは東のほうになります。大体、住宅地の中にある蔵書冊数10万弱のコンパクトな図書館となっております。当館では、一貫してこれまで、それからこれからも、地域の方々、特に成田地域の方々を中心に、サービス、ハード面とソフト面で力を入れているところでございます。

ハード面に関しましては、施設の老朽化は否めませんが、できるところからやっております。具体的には、レイアウトです。書架の位置がえをしたり、あるいは椅子の増設ということで昨年度は20%強の増設を図っております。

あと、資料に関しまして、収集の方針としましては、利用者から直接いただくリクエスト、こちらを中心に集めております。それでも、本が集まらない、ご希望のものが購入できない場合等は、ほかの自治体からのお取り寄せ、都立図書館からの協力ということで、可能な限りご提供できるようにしております。

こうしたハードな面とともに、ソフトの面でも充実させてまいる所存でおります。具体的には、いらっしゃる方々のハートをつかもうということで子どもやちっちゃい方々を特に中心に力を入れているんですけども、お子さんが来たときにまた来たいと思えるように積極的に声掛けをしています。お母さんと一緒にいらっしゃる方々が多いですけども、そういった方々には積極的にスタッフのほうからお手伝いできるようにスタッフ全員でやっております。あと、声掛けをすることで、防犯ですね、そういったところで危険を未然に防ぐようにやっております。あと、来る人々がいる一方で、図書館には来ない人々もいるかと思えます。そういった方々も取り込めるように各種の講演や映画会等も実施しております。あと、日本語以外の、外国人対応としましても、英語を中心にはなりませんけれども、対応できるような態勢はとっております。今後、国内外の図書館の業界の動向ですね、公共図書館ですと新しくできるような図書館を見ておりますと、人と人ですね、人との交流ができるようなスペースづくりといったところを中心にやっているところがよく見受けられます。あと、大学図書館等では、ラーニングコモンズ等も、10年、20年経過して大分根づいてきているかなと思しますので、そういう動向も注視しながら成田地域の交流の場として人々が利用できるようにというところで注力してまいりたいと思っております。

あと、利用者満足度調査、先々月実施したものに對しましても、真摯に受けとめて、これから見直しをしてまいりたいというところがございます。

成田図書館からは以上です。ありがとうございました。

○西荻図書館長 西荻図書館長です。よろしくお願ひします。29年度事業につきまして、館別自己総合評価から主なものをお話しさせていただきます。

まず1点目ですが、「学びの場」としての図書館について。資料の点検、除籍作業を、従事日を決めて、定期的に行いました。除籍ばかりではなくて利用の多い図書の買いかえと、あと新刊書の購入も進めることで図書に偏りが出ないように注意して行いました。また、

郷土資料コーナーの整理や館内サインの見直しなども行いまして、わかりやすい表示を心がけました。この作業は、必要に応じて今後も続けていく予定です。

2点目、「知の共同体」としての図書館について。夏休みに向け、児童対象のレファレンスを充実させたいということから、児童担当職員を外部研修に派遣しました。その後、その職員が講師となりまして、事例を挙げての演習を行うことで職員全員の力量アップを図りました。また、西荻図書館の重点課題図書コーナーを設置することで、この分野の利用拡大も図りました。

続いて3点目、「楽しい交流空間」としての図書館については、YAコーナーや児童コーナーのさらなる充実に取り組みました。特に、YAコーナーは、スペースを広げまして、図書もふやし、看板も大きなものにつけかえまして充実させました。これについては、利用者の方から面を見せて展示してあると本をととても選びやすい、また、以前に比べて本に出会いやすくなりましたとのうれしいお声をいただきました。児童書コーナーでは、赤ちゃん絵本を探しやすくするようにコーナーをテープで囲うなど工夫を凝らしました。今年度も児童コーナーの改善は継続して行っています。

4点目、「目標実現のための基盤づくり」については、近隣の荻窪中学校と桃井第三小学校の図書館を見学しまして、学校司書との懇談と情報収集を行いました。これにより、特に荻窪中学校との良好な関係が続いておりまして、毎年恒例になっている中学生おはなし会の開催を初めとして相互に協力し合える関係を築くことができました。また、桃井第三小学校とは、夏休みのスタンプラリーで協力を続けております。

次に、30年度を取組としては、前年同様わかりやすく利用しやすい図書館を目指しております。保存書庫整理を継続し、蔵書数を適正規模に近づけながら、開架書架の更新を図ってまいります。また、一部書架の配分構成の見直しやわかりやすい児童図書コーナーづくりに取り組んでまいります。さらには、YA世代向けの広報の充実にも取り組んでいきたいと考えております。そして、これまで継続してきた講演会などの行事を行いながら、大勢の皆様に来ていただけるよう取り組んでいきたいと考えております。

西荻図書館は以上でございます。ありがとうございました。

○阿佐谷図書館長 阿佐谷図書館長です。よろしく申し上げます。

阿佐谷図書館は、JRの阿佐ヶ谷駅から北に向かって徒歩12分のところに位置しております。1階が主に一般向けの書籍で、2階が児童とティーンズ向けのYAコーナー、対応する利用者がそのように分かれることで、お子さん連れの家族連れの方々も安心して気軽に来

ていただける環境となっております。

では、29年度の報告はA4判の館別自己総合評価で説明させていただきます。

3段目、アピールポイントから。昨年は継続して発行している「あさがや図書楽」という冊子のVol.3を発行・配付いたしました。また、真ん中辺、認知症サポーター養成講座を実施して、各職員が認知症についての理解を深め、適切に利用者をフォローできるように環境を整えました。また、その下、「戦後72年・平和を考える」では、「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展」を行い、あわせて「黒い雨」の上映会、「はだしのゲン」の上映会などを行い、好評をいただきました。

下のほう、中学生との連携も進めております。「中学生がえらんだイチオシ本」というブックリストを協働で作成・発行いたしました。その本に関する展示も行い、YAギャラリーとして展示していて、図書館からは足が遠のきがちな中高生にも興味を持っていただけるようにブックリスト、展示双方で協働作業をしております。さらに、こちらから中学校にも出向いて、出張講座、POP広告作成講習会なども取り組んでおります。

29年度の報告は以上です。

30年度の計画ですが、A4判の事業計画をごらんください。

こちら、まず1番目の「『学びの場』としての図書館の実現」としては、引き続き就労支援コーナーの資料、重点課題として阿佐谷は就労支援を掲げておまして、こちらの資料の充実を進めていきます。また、全体の蔵書適正化がややおくれぎみなので、今年度でそのおくれを取り戻し、またさらに減らすだけではなく全体バランスを考慮して、利用者満足度調査の声も聞きながら、書架の充実を図っていきます。

2番目の「知の共同体」としては、館内レファレンス研修などを行いながらレファレンス技術の向上を目指してまいります。

3番目の、裏面ですね、「楽しい交流空間」としては、ワークショップ形式の読書会や、あとはオリンピック・パラリンピック開催を見据えて、お子さんも含めて、皆さんに英語に関心を持っていただけるような事業も展開してまいります。

最後に、4番、「目標実現のための基盤づくり」です。産業振興センターやワークサポート杉並など外部の団体とも協働、連携を図りながら障害者実習など雇用に結びつくような取組もしていきたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。

○南荻窪図書館長 南荻窪図書館長です。よろしく申し上げます。

まず、平成29年度事業報告のご説明をします。資料、館別自己総合評価の南荻窪図書館をごらんください。それでは、自己評価の高い取組結果の中から主なものについてご説明します。

まず、1点目は、環境重点館として既に1階に環境コーナーを設置していますが、新たに2階児童フロアに「南荻窪いきもの研究所」という常設展示コーナーを設置したことです。このコーナーには児童に興味を持ってもらうため、「いきものクイズ」というものを作成して置いています。また、例ですけれども、「体を切られても死なないし、数がふえるいきものは？」というようなクイズです。答えはプラナリアです。

2点目は、新たに地域在住の講師をお招きして講演会を開催したことです。昨年12月に与謝野晶子・鉄幹の講演会、ことし2月には「善福寺川をよみがえらせよう！～子どもの子どもまでつなげる自然再生～」という、環境をテーマにした講演会を開催しました。どちらの講演会も大変好評でした。与謝野晶子・鉄幹夫妻の晩年の住居は南荻窪にあります。川南共栄会に講演会のポスター掲示をお願いしました。この講演会を契機として、商店街とのつながりができました。

3点目ですけれども、毎週水曜日に実施しているあかちゃんタイムで、「えほんパック」を紹介したことです。本をじっくり選ぶ時間の余裕がない保護者の方に、テーマにあわせた絵本のパックを用意したところ、好評で貸出につながりました。招待おはなし会については、おさんぽ途中のおはなし会という名称で近隣保育園・幼稚園に声かけを行いました。

では、次に平成30年度の事業計画について、その主なものについて、具体的な計画についてご説明いたします。

1点目は、環境重点館として資料と環境コーナーのさらなる充実をめめます。南荻窪いきもの研究所コーナーは、新刊図書で子ども向けのよい本があれば加えるなど、充実を図っていきます。また、今年の6月から国連生物多様性の10年日本委員会のホームページに、この南荻窪いきもの研究所が常設施設として紹介されています。また、フェイスブックでは展示コーナーの写真も掲載されています。今年は、与謝野晶子の生誕140年になるため、新刊図書があれば購入します。図書の充実を図るとともに蔵書規模適正化に沿った除籍を進めていきます。

2点目は、古典文学に関する関心を高めるための講演会を12月に予定しています。また、好評でした環境講演会については、将来を担う子どもたちに自然再生の大切さを理解してもらうために、若い世代向けの講演会を来年の2月に予定しています。

3点目は、幼少期から読書に親しむ環境づくりとしておさんぽ途中のおはなし会の活動を、今年度活動開始して、ことしの5月に第1回目を行いました。また、小学校及び中学校との連携を強めるために、学校司書との情報交換会を8月に予定しています。

最後になりますが、地域参加型イベントとして、第1回「善福寺川百景」作品展を5月26日から6月17日の23日間、開催しました。この作品展は善福寺川をテーマに地域住民の方が創作した絵画や写真などを展示するものです。期間中の入場者は231名、応募作品数は12点でした。このように、地域住民にとって南荻窪図書館がより魅力にあふれるような場となるよう、今後ともスタッフ一同努めてまいります。

以上で南荻窪図書館の説明を終わります。ありがとうございました。

○下井草図書館長 下井草図書館長です。よろしくお願いいたします。

それでは、平成29年度事業報告につきまして、主なものを何点かご説明させていただきます。

まず1点目は、昨年4月に名作文庫から独立させて、YAコーナーを2階に新設しました。若者向けの図書をそろえるとともに、YAだよりの発行、テーマ別提示に向けた準備を進めてまいりました。また、分担収集である産業分野や重点課題である生活における健康を含め、特色ある蔵書構成を視野に資料収集を行いました。館内の蔵書規模につきましては、計画的な除籍を行い、目標値に近づけることができました。書架案内につきましても、見やすくわかりやすい表記、掲示にいたしました。

2点目としましては、昨年開館20周年という記念事業として、日本フィルハーモニー交響楽団による木管五重奏コンサートの開催、また、区内小中高生を対象とした作文コンクールを行いました。開館20周年に当たっては、記念事業以外の各種行事のポスターですね、あとチラシ、機関誌と図書館マスコットであるモグラのしもいちくんを取り入れた20周年デザインロゴを作成し、積極的にPRを行いました。昨年も多分見たと思います、こんなロゴでございます。モグラのしもいちくんという。はい。20周年で、行いました。そのほか、地域のお祭りであります井草地区区民センターまつりでの古本市、リユース市というんですかね、地域への参加、あと学校司書連絡会の参加により近隣小中学校との情報交換ができました。

それでは、平成30年度事業計画でございます。

1点目は、YAコーナー設置2年目ということで、10代の若者を引きつけるような図書の収集と特集展示コーナー、そして機関誌YAだよりの発行を行っています、発行を行って

いきます。また、館独自の名作文庫コーナーについても、幅広い年齢層にぜひ読んでもらいたい名作本の紹介、特集展示に力を入れていきたいと思っております。

2点目ですが、あるテーマについて調べたいときにナビ役として活用してもらいたい手引書パスファインダー、これ4種類ですけれども、作成していきます。今後も定期的な情報更新を行っていきます。

あと、先日、児童作家の加古里子さんがお亡くなりました。で、ありがとうございます加古里子さん展示コーナーを2カ月間行いました。それで、絵本の紹介を行ったということでございます。

そのほか、地域ボランティアとの協働事業おはなし会、工作会を定期的に行って、楽しい交流空間づくりを進めていきます。下井草図書館が静かで落ちつく図書館、また誰もが気軽に立ち寄れるような親しみのある図書館となるようスタッフ一同努力してまいりたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○高井戸図書館長 高井戸図書館長です。よろしく願いいたします。館別自己総合評価を要約しまして高井戸図書館の取組を報告いたします。

昨年度の課題としましては、大きなもので、四つ上げました。まず一つ目が、新設した「読み聞かせにおすすめする本の棚」の周知、活用が、昨年度は足りなかったことが課題として上がりました。二つ目に、スタッフはもちろんですが、図書館活動を一緒に支えてくださるボランティアの方々の技術の向上をして、図書館全体のサービスの質を上げること。そして三つは、カウンター業務の基礎でもあるレファレンスの技術を向上すること。最後に四つ目は、隣接している高井戸中学校との連携を固めることです。

対応状況としましては、1番目に学校司書と連携して、読み聞かせにおすすめする本の棚を周知することができました。近隣の小学校の保護者の方が棚目当てに来館されて、参考にしてくださる様子もうかがえました。また、実際に棚から本を選んで読み聞かせをした方から感想を書いていただいて掲示する掲示板も設置し、生の声を参考にして、図書館が一方的におすすめするだけにはならないように工夫もしております。

2番目に、本の修理を行う高井戸図書館のボランティアの方々に、スタッフがマンツーマンでトレーニングを重ねました。初めはなかなかうまくいかなかった方もいましたが、徐々に修理がうまくなって、ご本人もやりがいを感じてくださるようになりました。また、修理のベテランの外部講師もお呼びして修理研修も実施し、しっかりとした修理の知識を

習得していただくことができました。

3番目に、レファレンスです。ディスカッション形式や今までのレファレンス事例の情報を共有し、また端末操作やコツ、端末操作のコツや案内方法など、ベテランが受けても、新人が受けても同じ水準の回答ができるように、スタッフ全体のスキルアップを図っております。

4番目は、今まで高井戸中学校との連携は順調に行ってきたんですが、担当の異動や変更により連携がスムーズにいかなかったケースがございました。双方の段取りが見えるマニュアルというのをつくりまして、連携がスムーズになり、今後にもつながるようなものことができました。

今後の取組としましては、読み聞かせにおすすめする本の棚についてですが、活用してくださった方々から好評いただいているので、もう少し周知を進めていかななくてはというところが今後取り組んでいくところです。

もう一つが、学校との連携です。高井戸中学校とは扉一枚でつながっていることもあり、とても連携がしやすく、図書館ガイダンスや昼休みにビブリオバトルを行うなどさまざまなことを行ってきましたが、ほかの近隣の学校とも連携を進めていくようにしていきたいと思っております。

以上、高井戸の報告となります。ありがとうございました。

○方南図書館長 方南図書館長です。よろしくお願いたします。

方南図書館は、杉並区の南東、中野区と渋谷区の区境に位置します、区内唯一の1階部分のみの小さな図書館でございます。2階に私立保育園が併設であるところから、特に出産から幼児までの子育て支援を重点収集としております。親子参加型の支援講座を年に3回実施しているほか、通常のおはなし会も0歳児から年齢や対象別に5種類に細分化して実施しております。

では、29年度の事業実績と30年度の計画について、資料を簡単に抜粋してご報告させていただきます。

まず、学びの場として、蔵書規模適正化により除籍された資料を7月の蔵書点検の前と2月の学校司書連絡会の前、各3日間リサイクル市を実施して、区民の皆様へ還元いたしました。ゆとりが生まれた書架はサインを一新したほか、子ども用の調べる絵本を出版社別からテーマ別へ配架を変更し、探しやすく活性化した書架となりました。リサイクル市は30年度も実施しております。

知の共同体としては、スタッフ全員がそれぞれ課題に取り組むレファレンス研修を2回実施、その回答内容を全員回覧して共有し、個々のスキルアップに結びつけました。こちらも30年度も継続して実施しております。

一方、ヤングアダルト向けに館内での居心地のよい場所づくりに取り組み、中高生から投函、投稿されたイラストを掲示した黒板を中心としたYAコーナーを完成、結果、中高生の利用をふやすことができました。

インセンティブ事業では、利用者の皆様から提供された古い写真をもとに、地域再発見の第2弾、「ココドコ!？」を実施し、写真で示す地域資料として冊子にまとめることができました。また、3年連続して開催されている館内クラシックコンサートでは、開館時間中にもかかわらず音の出るイベントでございますが、地域の皆様のご理解とご協力のもと、小さなお子様連れからご年配まで、毎年、大変好評をいただいております。

楽しい交流空間として継続して取り組んできておりますグリーンカーテン、こちらも30年度はバージョンアップし、コンポストを設置、敷地内の落ち葉の再利用に取り組んでおります。新宿の間近な方南という地域で、地域の皆様や近隣の公共施設の方々とのつながりを大切に、生活に溶け込む図書館でありたいと思っております。

以上です。

○今川図書館長 今川図書館長です。よろしく申し上げます。

今川図書館は、平成19年12月16日に13番目の区立図書館として開館し、昨年の12月が開館10周年の節目の年でございます。なお、今年度、30年度は、図書館サービス業務委託契約の最終年度となっております。

最初に、今川図書館の平成29年度事業報告をご説明申し上げます。資料は、今川図書館の館別自己総合評価をごらんください。五つの課題を中心に取り組んできましたが、その中の主なものの取組を説明させていただきます。

初めに、開館10周年記念企画の実施ですが、「みんなだいすき工作会」や日本フィルハーモニー交響楽団による開館10周年記念コンサート、これはちょうど12月16日の開館日に開催することができました。また、落語家桂扇生師匠の「今川寄席」、ほかのイベントも開催しましたが、全てそのイベントとともに、関連図書の展示とともに開催して、1年を通して10周年記念事業に取り組む、多くの方に楽しんでいただくことができました。

次に、重点課題の緑化推進ですが、常設の書架として「みどりのコーナー」を新たに設けました。また、図書館の正面玄関脇にみどりの特集展示を設置して、季節ごとの展示と

ということで、展示がえを行ってきました。来館者の関心を集め、みどりに関する興味も持たれたようです。また、図書館西側壁面に、ことしも設置しましたが、みどりのカーテンを設置して、みどりを育てたということで、ふうせんかずらとあさがおの種を収穫しまして、その配布を行いました。また、その配布とともに、花の育て方、種の見分け方の本を展示し、利用者に重点課題の周知度を高めました。あわせて、「みどりのワークショップ 高尾の森からこんにちは」を実施しております。

最後に、子ども読書活動の推進では、近隣の小中学校7校の学校司書との意見交換会、「子どもの読書応援団」の開催や「夏休み読書スタンプラリー」を継続して実施することで、読書の楽しさや図書館の存在をアピールすることができました。また、近隣小学校を卒業する6年生に、「中学校の図書室によろこそ」と題したブックレットを前年に引き続き配布しました。

引き続き、30年度の事業計画をご説明申し上げます。資料2枚めくっていただいて、今川図書館事業計画をごらんください。

最初に、「『学びの場』としての図書館の実現」ですが、いつでもだれにでも必要な情報が手に入る地域の学びの場の実現を目指し、利用者を支援するレファレンスサービスの充実を引き続き図っていきます。また、重点課題である緑化推進に関連した講座やみどりの特集展示を行うなど、図書館の特色を活かした学びの場を設けていきます。

次に、「『知の共同体』としての図書館」を目指します。ボランティアと連携した事業の継続実施、利用者参加型の事業のグループ読書の開催、地域の個人や団体の方を講師とした講座等の開催などで、区民の知を活かす場として、区民の知識やスキルを図書館で発表できる機会を提供していきます。

次に、「『楽しい交流空間』としての図書館」を創出していきます。併設施設のゆうゆう館、老人施設ですが、ゆうゆう館との共催事業やあかちゃんタイムの実施などにより幅広い世代の方が図書館に来館するため、異世代間での交流の機会を創出していきたいと思っております。

最後に、目標実現のための基盤づくりに努めていきます。図書館サービスの向上のため、高齢者や身体障害者の援助方法などを学ぶとともに、接遇やレファレンスなどのスキル向上を目的とした職員研修を継続して実施していきます。また、図書館未利用者向けに図書館の便利な利用方法などがアピールできる広報活動の展開を図っていきます。近隣小中学校との情報共有や交流を図り、地域のニーズに即した図書館サービスの提供を目指してい

きます。今川図書館は、安心、安全で、使いやすい図書館運営に努め、地域の多くの皆様にご利用いただくよう、職員一同、力を尽くしてまいり所存でございます。

簡単ではございますが、今川図書館の説明とさせていただきます。ありがとうございます。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について、何かご質問、ご意見がおありでしょうか。

ご質問やご意見を。

○委員 どのような図書館を目指すかを、一言といいますか、アピールで言ってくださったのがとてもよかったですと思いました。ありがとうございました。

○会長 ほかに、ご意見、ご質問はいかがでしょうか。

(なし)

○会長 じゃあ、また、とりあえず先に進めさせていただきます。

次は、報告事項(3)、平成30年度区立図書館主催コンクール事業について、事務局のほうから説明させていただきます。

○事業係長 中央図書館事業係長です。よろしくお願いたします。資料3をごらんください。座って説明させていただきます。

事業係が担当させていただいています区立図書館主催コンクール事業についてご説明させていただきます。

中央図書館では、毎年、小学生・中学生・高校生を対象に三つのコンクールを実施しております。各コンクールの概要とそれから今年度の日程について下記のとおり、ご案内させていただきます。

まず一つ目ですが、杉並区子ども読書月間標語募集というコンクールを行っております。これは、杉並区子ども読書活動推進計画に基づいて、平成16年に、毎年6月を杉並区子ども読書月間と決めました。これにつきまして、平成22年度から標語の募集を開始して、対象に選ばれた作品を基に子ども読書月間の広報用ポスターを作成しております。委員の方のお手元にお届けしていますが、この杉並区子ども読書月間標語大募集というチラシがございますが、今、まさに、今年度は募集中でございます。7月20日までということで各学校にお配りしたところ。あと、各図書館でも募集をしております。こちらの最優秀賞に選ばれた作品について、次の年の6月の子ども読書月間にポスターとして作成をいたし

まして、区内の掲示板ですとか学校ですとかに配付をしております。昨年の最優秀作品がこちらになります。「ぼくの相棒は大好きな1冊」という一言ですね。こちらが、これは高井戸第二小学校の6年生の方、当時ですね、の方の作品をもとにポスターにしたものになっております。で、一昨年はこちらですけれども、こちらは新泉和泉小の5年生の方の一言で、「初めましての1ページ」というものになっております。まちかどでござんいただいたこともあるかと思いますが、これをまたことし選びまして、来年の6月のポスターの作成に生かしていきたいと思っております。今年度のスケジュールは、募集期間が平成30年6月11日から7月20日まで、審査会を主に職員が中心に審査しておりますが、8月と9月、そして対象の発表を、図書館ホームページのほうで10月に発表する予定になっております。

それから二つ目です。第19回杉並区図書館を使った調べる学習コンクールです。こちらもお手元にお配りしましたこの青いチラシですね、これが募集の要項になっております。こちらは、図書やその他の情報を使って自分が興味を持ったことや疑問に思ったことを調べ解決すること、またそれを作品としてまとめ、ほかの人に伝えることができるようになることを目的として平成12年度から開催をしております。優秀作品は、図書館振興財団が開催する全国コンクールのほうへ送付されます。募集期間は、平成30年9月1日から25日ということで、ちょうど夏休みに研究に取り組んで、その作品を9月になったら応募いただくというような流れになっております。審査会は、例年10月です。それから、表彰式は、11月に本庁の会議室のほうで表彰をいたしまして、その後、中央図書館での展示をしたものを全国コンクールへ送付という流れになっております。

ちょうど、今、作品は、いただいた作品はみんな、生徒さんのお手元に今戻ってしまったところですけども、これは過去の優秀作品で、全国のコンクールのほうで優秀賞というのを受賞した、三谷小学校の5年生の方の作品のレプリカが今こちらにございます。で、優秀作品はこのようなレプリカにして、全国の参加団体ですね、そちらのほうで閲覧することができるようになっております。これからもできるだけ全国大会に、また優秀な賞を取れるようなご指導を学校とともに進めていきたいと思っております。

最後です。3番目ですね。第15回のすぎなみ本の帯アイデア賞というのがございます。こちらは、子どもが自分で選んだ本に帯広告を作成して、本にかけて、本と一緒に提出してもらい、それを審査するものになっております。こちらが平成16年度から開催をしております。

こちらの冊子のほう、お手元にお配りしましたが、これは昨年の第14回のアイデア賞の

ものです。2ページめくっていただきますと、本の帯アイデア大賞というのがございまして、こちらの回、小学校2年生の方の作品なんです、アイデア大賞をお取りになった作品です。「どろんこハリー」という大変親しまれている絵本に、このピンク色の、白から黒に変身という帯をつけて提出をされました。これが大賞ということで、選ばれております。ほかにも、コピー賞ですね、この文章がとてもすぐれているですとか、それからビジュアル賞ですね、大変この紙面の構成がすぐれているですとか、いろいろな観点で評価をしたもので各賞を決定しております。こちらの今年度のスケジュールにつきましては、募集期間が平成30年10月16日から10月30日、それから審査会のほうを11月に行いまして、表彰式は来年の1月にこちらの中央図書館で行う予定になっております。

説明については以上でございます。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

報告事項(3)につきまして、何かご質問、ご意見おありでしょうか。

○委員 すみません。この三つの賞についての応募者数はどれくらいあったのか、教えてもらえますか。

○事業係長 はい。標語募集ですが、こちらが昨年度の応募点数は約600点ということになっております。それで、調べるコンクール、本の帯に比べて、キャッチフレーズを考えればいいということで、結構中学生など忙しい世代の方にも応募いただいております。はい、600点程度です。

それから、調べるコンクールですが、こちらは、実は学内選考をさせていただいております、図書館のほうに届いたものというか、応募総数はやはり600点程度なんです、学校内選考を含むと全部で2,800点ということで、たくさんの方が取り組んでいただいて、その中で学校のほうで選んでいただいたものを中央図書館にお送りいただいております。

それから、本の帯アイデア賞も、全クラスで取り組みたいというお声もあったんですけども、本自体が大きい本、小さい本、いろんな物流の関係で審査が大変ということで、やはり学内選考をさせていただきまして図書館のほうで審査に、最初にさせていただいたのは600点程度ということになっております。はい。

以上でございます。

○会長 ほかに、ご意見、ご質問おありでしょうか。

○委員 余談もしゃべっていいですか。

○会長 はい。

○委員 はい。私、子どもがこの本の帯のアイデア賞に絡めた授業をしたのを見たことがあります。学校の方で、その前に本を、どんな本が好きかなみたいなことをやったり、あと、実際に帯をつくる授業が公開されていて、子どもたちが本をつくったり、その楽しい様子を見て、実際、前の年に先輩が賞を取ったということで、賞を先生がアピールしているのとかを見て、すごく楽しい取組だなというのが、子どもたちだけでなく、その授業を見た親もすごく楽しい気持ちになれたことがあります。こういったことを通じて、図書館がどんどんアピールされていけばいいなと思います。

以上です。

○事業係長 ありがとうございます。

○会長 ほかに、おありでしょうか。

どうぞ。

○委員 ご説明してくださった内容と質問がずれてしまうんですけど、6月が杉並区子ども読書月間になっている由来というんですかね。

○事業係長 ああ、はい。

○委員 あと、図書館利用が6月はふえたりとか、影響はありますか。

○事業係長 そうですね。6月を杉並区読書月間にした経緯というのは、私も、先輩から聞いたところなんです。まず、お子様方の学校の長期の期間、休業期間にかからないような形で、例えば夏休み、冬休み、春休みにかからない期間ということで、それからあと、秋が全国的な読書週間などのいろいろな取組がございますので、それ以外の期間でということだったんですが、6月が多分梅雨などで室内で過ごすことが多いというようなことで、そうすると読書などに取り組みやすいということで定めたというふうに聞いております。ちょっと消去法的ですけども。かなり6月は杉並区子ども読書月間、定着はしていると思うんですが、ちょっと6月にどのくらい利用がふえているとか、そのあたりの調査は、私は存じません。すみません。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ちょっと思ったことがあって。

調べる学習コンクールのこの受賞作品のタイトルなんかを見ていくと、必ずしも全部が全部杉並区に関することとは限らないようですけど、でも、水があふれたとか、ムクドリのおねぐらとか、いろんな意味で杉並区に関するものも多いんで、まあ郷土資料の部門でやっぱり、あ、別に、ほかのタイトルもとっておく、コピーをとっておくとか、そういうこ

とも検討していただきたいなというふうに思います。

○事業係長 わかりました。

○会長 それからあと、本の帯アイデア賞については、今カラーコピーがあるんで、何か、受賞した作品やなんかは各図書館でそのコピーを、その本を所蔵していればちょっと一時期それをつけて展示するとか、そういうふうにすると、意外と子どもの励みにもなるんじゃないかと。あと、私は物としての書物というのが研究テーマなんで、そういう意味で、本の帯とか、しおりなんかも、研究はしていませんけど興味があって、ゼミの学生にちょっとつくらせるとかそういったこともやっているんです。何か本の帯ももっといろんな可能性はある。まあ最近いろんなものが出てきていると思うんですけど、何かそういうコンクールも、ここまで大々的に、具体的にやるのは難しいと思いますけど、何か学校の先生なんかはそういうのを授業で使わせてみるとか、そういうアイデアがこう、生かしてもいいんじゃないかなというふうにちょっと思いました。

○事業係長 はい。

○会長 ほかに、ご意見、ご質問。

○委員 去年、西荻図書館で、このアイデア賞とそれから図書館を使った調べる学習コンクールの作品の、あれはレプリカだったのかな、実際のものだったか、展示されてあったのを見まして、すごいすばらしいんですね。で、小学生低学年の子とか中学生とかが、本当に、こんなに一生懸命細かく丁寧に調べていて、すごいなと思って、びっくりして感動したんです。こういうのを、図書館ごとに展示して回っているのかもしれませんが、こういうのに、全くちょっと苦手な子どもたちもいると思うので、各小学校にこういうのを回覧して、こういう作品があるんだよみたいな、子どもたちに見せて回せるというのはやっていらっしゃるのでしょうか。

○事業係長 よろしいですか。このレプリカというのはその振興財団がつくっておられて、図書館のほうでは毎年借りているんですけども、そうではなくて、例えば読書団体ですとかそこが申し込んで借りることもできますので、学校ごとに興味を持ってということだと、その単位で申し込んで借りるということが出来ますね。図書館では、一組しか借りていないものですから、各図書館に巡回しているところなんですけど、もしそれぞれの保護者の方でごらんになりたいということでしたら、申し込まれば借りることができます。

○委員 やはり実際にそういう作品を見て、子どもたちはすごい刺激を受けると思うので、

今後の課題として各学校に回すようなことを検討していただけたらいいかなと思いました。

○会長 ほかにおありでしょうか。あるいは、ほかに、(1)、(2)についても、何かご質問、ご意見おありでしたらお願いします。

よろしいでしょうか。

(なし)

○会長 では、報告事項については以上ということにして、今回審議事項はございませんが、その他事務局から何か連絡事項はありますでしょうか。

○中央図書館次長 はい。それでは、私のほうから。

次回の図書館協議会でございますが、10月ごろを予定したいと思っておりますが、会長、副会長と事前にちょっと日程調整をしたところ、なかなか私どものほうのこの会場の都合だとかとちょっと合いませんので、改めまして委員の皆さんにメール等でご都合等を伺いまして、組まさせていただきますというふうに思っております。

なお、場合によっては、例えば平日の夜だとか、あるいは日曜日だとか、そういうようなこともあり得ますので、事前にお含みおきをいただければと思います。なるべく多くの方が参加できる日時にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○会長 それでは、これで終わりということになりますが、何か。

よろしいですか。

○委員 すみません。その他の部分でよろしいのでしょうか。

○会長 はい。

○委員 中央図書館の改修計画につきまして、前回は検討中というお答えが多かったと思うんですが、その後の改修計画の進みぐあいというのはどこまで進んでいるのでしょうか。

○中央図書館次長 はい。

○委員 例えば、蔵書をどこに移すとか、それからその間の貸出手続の方法についてとか、前回は検討中というのが多かったと思うんですが、具体的に何か進んでいることというのはあるのでしょうか。

○中央図書館次長 はい。当然、前回よりも検討は進んだというふうに思っておりますけれども、まだ、基本的にはこの改修の設計について継続して今やっているということが、まず一つあります。それから、前回の図書館協議会のほうでもありましたように、蔵書をどこかに移そうというようなことで、これについては幾つかの方法が考えられますので、

それについて、いろいろな案を比較して、一番負担がなく、時間的にもあるいはコスト的にも見合うような方法があるかどうかと、そういったようなことも今検討中と、というようなことです。

いずれにしても、その辺をもっと詰めまして、財政当局にも今後予算要求とかをして、認めてもらわないことには、それは正式なものということにはなりませんので、所管としましては、いろいろな可能性を今探っているというような状況です。ですから、まだ、具体的にこうなりますだとか、はっきりしたことを申し上げられるような段階にはまだないというようなところです。

以上です。

○会長 ほかに。

○委員 情報公開について、例えば来年の4月から休館になるわけですね。そうするともう一年を切っていますので、利用者に対する情報公開というのはお考えなんでしょうか。

○中央図書館次長 当然それについては、情報公開というよりもお知らせというか、そういったものはしていかなければいけないというふうに思っておりまして、館内にそういった掲示等もやっておりますし、今後、ホームページだとか、広報ですとか、そういったようなものも使ってお知らせをしていきたいというふうに思っております。

○委員 大体いつごろから、そういうのはお知らせが出るのでしょうか。

○中央図書館次長 今、館内掲示などをしておるんですけども、大体、今、今のこのタイミングで言えることというのは、大体、改修をすることになっていきますということと、あと来年度から工事に入る予定ですということと、あとは詳細については、そういったものが決まりましたら改めてお知らせしますというようなことぐらいしか言えない段階なんです、今。ですから、館内掲示についてもそのような表現にさせていただいているんですが、もうちょっと具体的なことを言えるようでしたらそれについて、そのことが、方向性が決まったということになりましたら、それはお知らせしたいというふうに思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにありませんか。

広報する際に、隣接する区とか自治体で、隣接する自治体の住民とか通勤・通学者に対しては利用証を発行しているという区だとか市もあると思うんですけど、あらかじめ、一応協力を依頼した上で、そういう、杉並区の本館がやむを得ず休館にせざるを得ないんで、そういった場合には、武蔵野市だとかそういうところは、隣接した人に対して利用証を出

しているというようなことは意外と知られていないことだと思いますので、そういうのは、広報のときに、そういう情報もつけて広報していただけたらいいんじゃないかと思いますので、ご検討をお願いします。

○中央図書館次長 わかりました。ありがとうございます。

○会長 では、よろしいでしょうか。

○委員 すみません、よろしいですか。ちょっと申しわけないんですが、きょうはちょっとおくれてきてしまって、もし説明があったら申しわけないんですけども、私たちが評価する評価表のテンプレートの送付のスケジュールであるとか締め切り日のお話というのは出ましたでしょうか。

○企画運営係長 まだ、ちょっと詳細はまだ決まっていないので、後日、此方から連絡させていただきます。

○委員 ありがとうございます。

○副会長 大丈夫ですか。もう近いですよ。

○委員 もう——そうですね。

○副会長 私はちょっと全然日程が合わないの、再調整を個別にお願いしなきゃいけないんですけど。私は、全然、当初予定の視察日とか、全然もう合わなくて、調整し直さなきゃいけないんですけど。

○企画運営係長 視察日に関しては、ほぼ大体できておりますので、恐らくもうしばらくで出せると思います。あと2人か3人の調整が終われば、中のほうはできると思いますので、その旨のほうは送らせていただけるかと思っております。

○副会長 もう割と近いので、多分書類がないということに委員はちょっと気になって言われたと思います。多分それはほかの委員の方も評価しろと言われて評価用紙がないと…

…
○委員 そうなんです。

○副会長 そこに対して、多分今ご質問ですよ。

○委員 はい。評価用紙のほう。

○企画運営係長 一応図書館協議会が終わった後に発送できるかと思っておりますので、その辺は、ちょっとお待ちいただけますでしょうか。

○委員 利用者満足度調査の結果がついていないんですが、これはいついただけるんですか。

○企画運営係長 そこにつけてお送りすると思います。

○委員 3日の日にもらえるんですか。

○企画運営係長 その前に、多分送付されると思います。

○委員 送ってきてくださる。

○企画運営係長 そうです。

○委員 わかりました。

○副会長 やっぱり数値的なものがないと、結構今回も大体達成できたとか、それは多分数値がないと、大体なのかどうなのかは、多分主観によって変わるはずなので、やっぱりそのデータがないと、やっぱり、きょう伺っていても、例えば、何が何%かなとか、やっぱりありましたので、できるだけきちんご用意をお願いいたします。

○中央図書館次長 極力早目に皆さんのところに到達するように送らせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

○会長 よろしいでしょうか。

(了承)

○会長 それでは、30年度第2回図書館協議会を終了いたします。ご協力をありがとうございました。